

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年8月31日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0892500034		
法人名	医療法人 博仁会		
事業所名	フロイデ総合在宅サポートセンター山方	ユニット名	
所在地	〒311-3111 茨城県常陸大宮市山方1361		
自己評価作成日	平成27年1月30日	評価結果 市町村受理日	平成28年3月25日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_021_kihon=true&JigyosyoCd=0892500034-00&PrefCd=08&VersionCd=021
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年3月13日	評価機関 決 済 日	平成27年8月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

機能訓練に力を入れており、その地域で暮らし続けられる為のサポートを念頭に置き実施しております。職員も地元の方がおり、顔なじみの関係が作りやすい環境の中で運営させていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は国道沿いに立地し、1階は通所介護事業所、2階は小規模多機能型居宅介護事業所となっており、利用者は通所介護事業所のリハビリ器具を活用して週5日来訪する理学療法士や、通所介護事業所のリハビリトレーナーの支援のもと、機能回復や体力向上を目的としたリハビリを行い、車いす利用者が歩行補助車を使って歩行できるまでに回復した利用者もいる。

利用者と職員はプランターで野菜をつくり、その野菜を食材にして味わっているほか、バルコニーで秋刀魚や芋をバーベキューコンロで焼いて食べたり、毎月お好み焼きやクッキーなどのおやつ作りをして利用者の食事が楽しみなものとなるよう支援している。

職員は送迎時に利用者や家族等に意見や要望を聴くように努めたり、連絡帳を活用して家族等の意見などを汲みあげ、申し送りノートに記録するとともに、家族等から意見があった場合は、即対応できるよう取り組んでいる。

管理者や職員は元気で明るく、利用者一人ひとりの習慣や要望に合わせて、生き生きとした生活ができるよう支援している。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①利用者の気持ちに向き合い、寄り添うケアを提供する②その地域でいつまでも安心して生活を続けていけるよう、「通い」「宿泊」「訪問」を基本に、利用者様本位のサービスを提供する。この2つを理念として共有し、実践につなげていきたいと考えています	管理者と全職員で話し合い、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成している。 職員は自分達で作成した理念を暗記しているとともに、ミーティングなどで確認して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域主催のAED講習会へ参加したり、地域開催の芋煮会などに参加したりして交流を図っています。	利用者は散歩時に地域住民と挨拶を交わすほか、近くの直売所へ買い物や公園へ散歩に出かけたりして地域住民と日常的に交流している。 事業所主催の夏祭りでは、地域住民にチラシを配布して多数の参加があるほか、「よきこいソーラン」や「ダンス」のボランティアを依頼して、利用者と地域住民が楽しく交流できるよう支援している。 地域で開催される「鮎の里祭り」や「芋煮会」に参加するなど、事業所自体が地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての理解や支援については、事業所としてはまだ実施できていません（地域にむけて）法人としては、認知症カフェなどや、認知症サポーター講座に協力しております。今後は、事業所開催で認知症講座等の実施も考えて参ります。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーを新たに変更し、そこでの貴重なご意見等をサービスに活かしております。	運営推進会議は家族等の代表や地域包括支援センター職員、有識者などで2ヶ月に1回開催し、会議録を作成している。 管理者は事業所の活動報告や利用者の状況報告などを行い、情報交換をしている。 会議では「訪問した際にエレベーターが使用できなかったがどうしたことか」との質問があり、月1回定期的に業者の点検を行っていることを説明している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常陸大宮市市役所の方とは、福祉用具貸与や利用者様の登録者数の報告等を通じて、協力関係を築いていると考えております。	地域包括支援センター職員は、毎回運営推進会議に出席している。 管理者は市の担当者を訪問し、利用者の福祉用具貸与に関して相談をしたり、事業所の実情やサービスの取組みを積極的に伝えるとともに、情報交換をして協力関係を築くように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で勉強会等を開催し、原則玄関を施錠しないケアに取り組んでおります。	身体拘束排除に向けたマニュアルを作成するとともに、年1回マニュアルに基づいた研修会を実施し、職員は身体拘束の具体的な行為を理解しており、玄関や居室、エレベーターは施錠をせず、身体拘束をしないケアを実施している。 やむを得ず身体拘束をしなければならない場合に備え、家族等への説明書や同意書、経過観察記録、再検討記録を整備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で勉強会等を開催し、防止に努めております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で勉強会等を開催して、学ぶ機会を作っております。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、計画作成担当者が訪問し、説明を行っています。納得した上で、契約を締結していただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度末に、家族会を開催する予定があり、そこでのご意見等を反映させて頂きたいと考えています。また、次年度からは年2回ほど計画し、実施していきたいと考えています。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記して、契約時に家族等に説明している。 介護支援専門員は月1回自宅を訪問し、利用者や家族等から意見や要望を聴いている。 職員は送迎時に家族等の意見を聴くよう努めたり、連絡帳を活用して利用者や家族等の意見を汲みあげ、申し送りノートに記載して全職員で共有し運営に反映している。 管理者は朝と夕のミーティング時に利用者や家族等から意見があった場合は即対応できるように努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1度、ミーティングを開き、提案や意見を反映できるよう心掛けています。	管理者は月1回のミーティングで、職員の意見や要望を聞くほか、日常的にコミュニケーションを図り意見等が出し易い雰囲気づくりに努めている。 勤務表は職員の意見を聞いて作成するほか、職員から様々な勉強会をしたいとの意見を受けて、「認知症について」や「リハビリの機能訓練について」などの勉強会を開催している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジ（目標設定）カードや、勤務表により、努力や実績、勤務状況を把握するとともに、環境や条件の整備を心掛けています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	目標設定カードの確認や、定期に実施する研修報告会、職員勉強会などを実施し、資格が必要な職員については、講習会への参加を促したりして、資質の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	ケアマネージャーの勉強会や、地域ケア会議などへの参加を通じて、サービスの質の向上のために取り組んでいます。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	なるべく時間をかけて、本人のお話を聞くようにし、それを介護計画に反映できるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前の初回訪問時に、介護支援専門員等が、ご自宅に伺い、お話を聞くとともに、要望があればいつでもお話を聞かせていただくことをお伝えし、いい関係を作れるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の時点で、他のサービスが必要であるかどうかを家族様と話し合い、必要な場合には、こちらから助言したりするように努めています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	業務終了後ミーティング等で、その日のケアが職員本位でなかったか考えるようにしています。そうすることで、相互に良い関係が作れているのではないかと考えます。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族や親戚一同様が本人様のために施設に訪問し、演芸や腹話術をしたいというご希望があり、その機会を作るお手伝いをしたことがあります。そういったことで、共に支える関係を少しずつ作っているのではないかと考えています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の民生委員さんや班の方々、施設を訪問して下さるケースも多く、比較的その部分については上手く支援できているのではないかと考えています。	利用者の知人や家族等の来訪時には、居間や居室に案内し、お茶などを出してゆっくり話ができるよう支援している。 利用者が馴染みの理・美容師を利用できるよう職員が連絡調整をしたり、馴染みの店で継続して買い物ができるよう管理者が公用車で買物を支援するなど、馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者様同士を同じテーブルにしたり、新しい利用者様方がそこに入っても、馴染んでいけるまで一緒に介入したりしながら、孤立しないように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前だんな様が利用されていて、その方がなくなった後、奥様が相談にこられ、利用につながったケースがあります。必要であれば、終了したご家族様の相談を受け入れるよう心掛けて支援しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	認知症の利用者様等については、家族様と話し合い、利用者様本意になるよう意向等を確認しています。	職員は利用者と日々の関わりのなかでコミュニケーションを図り、情報を収集して一人ひとりの暮らしの希望や要望を記録しているほか、月1回のカンファレンス時に職員で共有を図っている。 職員は送迎時に家族等から話を聴いたり、利用者の表情や仕草から判断したりして利用者の要望に応じられるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	他の介護サービスをご利用していた利用者様に関しては、そのサービスの職員さんやケアマネさんから以前のお話を聞くようにしています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できる限りご自宅に訪問し、心身状態の変化や現状の把握に努めています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回カンファレンス等を実施し、現状に即した介護計画が作成できるようにしています。	介護計画は介護支援専門員が自宅を訪問して利用者や家族等の意見や要望を聴くほか、必要に応じてかかりつけ医や看護師から意見を聴き、介護支援専門員や利用者の担当職員などで利用者にとっての介護計画を作成している。 毎月モニタリングを行うとともに、6ヶ月毎の見直しを行っている。 利用者の状態に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に見直している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間ケア記録にてケアに関する記録を残しており、カンファレンスの開催時に確認し、計画の見直し等に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り、柔軟な支援ができるように配慮しています。必要な支援であれば、管理者と相談しながら既存のサービス以外の支援も検討しています。ですが、まだ具体例としては実施できていません。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	全員では有りませんが、可能な限り把握するように努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス開始時に、かかりつけ医があるかどうかお聞きし、あった場合には、その医療機関を利用させていただき、適切に医療が受けられるように支援しております。	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医を確認しているが、7割程度の利用者は法人系列の病院をかかりつけ医としている。 専門医院の受診は、基本的に家族等の付き添いを基本としているが、状況に応じて職員が受診介助をしている。 職員が付き添った場合は、受診結果は家族等に連絡帳や電話などで報告するとともに、記録して職員で共有している。 常勤看護師の健康チェックや見守りがあり、緊急時にも対応ができる体制になっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	送迎時、夜間にあつた連絡事項や、心身状況については、逐一報告し、朝礼や終礼時にも状況確認をするように努めています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供書をお渡しし、入院先の相談員さんとは情報共有できるようにしています。また、入院先から戻る際も、相談員さんとは連絡をとり、その後の対応などを相談するようにしております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年まで決めておりませんでした。現在のところ、今後の終末期の対応方針としては、当施設は終末期のケアを実施しない旨を契約時にお話させていただくということを取り決め、実施して参りたいと考えています。	事業所は「重度化やターミナルケアに関して」を作成し、重度化や終末期の支援を行わないことを明記して家族等に説明している。重度化に向かいつつある利用者に対しては、管理者や介護支援専門員が、利用者や家族等と十分な話し合いを持ち、他の施設や医療機関を紹介している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練という形では行えておりませんが、AEDの講習会や、初期対応の勉強会等を実施しております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難場所については、職員が共有できるようにしております。地域との協力体制については、現在ハザードマップ等を頂く程度ですが、今後さらに深く協力体制を築いて参りたいと思います。	避難訓練は年1回実施しているが、火災想定以外の避難訓練や近隣住民の参加を得ての避難訓練及び年2回以上の避難訓練を実施するまでには至っていない。 訓練後に反省会を実施したり、訓練で明らかになった課題などについて話し合いをするまでには至っていない。 災害に備えて飲料水を確保しているが、カンパンや缶詰、懐中電灯などを賞味期限や数量を記入した一覧表を作成するとともに、備蓄するまでには至っていない。	避難訓練は夜間想定を含め、最低年2回近隣住民の参加を得て実施することを期待する。 訓練後は反省会を実施して記録に残し、次回の避難訓練に活かすことを期待する。 災害に備え、缶詰や懐中電灯などを賞味期限や品目、数量を記入して一覧表を作成し、備蓄することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴やトイレ等については、ドア等で仕切ってプライバシーの配慮をしています。言葉掛けについては、馴れ馴れしすぎないように、職員同士注意しながら対応しています。	職員は利用者の尊厳やプライバシーを大切にし、常に話し合っって利用者の羞恥心や自尊心に配慮したケアに取り組んでいる。 入浴介助は基本的に一人ずつ対応したり、希望に応じて同性介助をしているほか、トイレ介助の際は小声で話しかけ、利用者に応じてトイレのドアを閉めて待つなど、プライバシーに配慮した対応をしている。 プライバシー保護に関するマニュアルを作成し、年1回内部研修を実施するほか、個人情報に関する書類は、事務室の鍵のかかる書棚に保管し、情報漏洩に留意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	原則、利用者様に希望を聞くようにしながら移動や活動ができるようにしています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	やりたいことや趣味がある方々には、それを率先してやっていただけるように支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝、好みの服を選んでいただけていただくように声を掛けています。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や後片付けを、職員と一緒にやっただけようにしています。	職員は利用者と同じテーブルに着き、食事介助をしながら同じ食事を摂っている。 利用者は職員と一緒におしぼりたたみや食器洗い、下膳などをして能力に応じた役割を担っている。 雛祭りや誕生会、敬老会、七夕祭りなどには、行事食を提供しているほか、毎月1回バイキングを提供するなど、利用者が食事を楽しみなものとなるように支援している。 プランターで栽培した野菜を食材にして味わっているほか、秋刀魚や芋をバーベキューコンロで焼いて提供し、季節の食材を味わってもらったり、利用者の要望で肉類から魚、ご飯から麺類などへの代替食を用意している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	24時間ケア記録等で水分量、食事量の把握をしています。	/	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しております。また、可能な方はご自分でやっただけようにしています（義歯など）	/	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	24時間ケア記録等で、排泄のパターンや回数を把握し、排泄の自立に向けて支援しています。	職員は排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。 職員の声かけや時間の誘導により、利用者のほとんどがトイレで排泄している。 泊まりの利用者の状況に応じて、夜間のみ居室にポータブルトイレを配置し、自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	24時間ケア記録等で、飲む水の確認をしており、排便の回数も可能な限り把握するようにしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午前や午後の時間をできる限り希望で行うようにしていますが、夜間や朝の入浴についてはできていない状況です。	入浴は利用者の希望や状態に応じつつ、通いの利用者は毎回、泊まりの利用者は毎日を基本としている。 必要箇所の手摺を設置したりシャワーチェアを用意して利用者が安全に入浴ができるよう支援している。 入浴剤を使用するほか、菖蒲湯や林檎湯、柚子湯などで季節感を取り入れ、入浴が楽しみなものとなるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調、気分に合わせて、休息や睡眠が取れるよう、場所（居室）を使用したりして、支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と職員で、服薬確認表等を確認し、症状の変化を見守っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1ヶ月、同じ内容にならないよう（マンネリ化防止）生活歴を勘案しながら、月間予定表を作成し、その日に合わせて柔軟に対応しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご近所のスーパー等には要望があれば行くようにしております。職員が利用者様の家族と協力し、娘さんの結婚式に参加したことがございます。可能な限り、そういった支援ができるようにしています。	天気の良い日は、利用者と職員で事業所周辺の散歩に出かけたり、庭や2階の広いバルコニーで外気浴をしたりして気分転換が図れるよう支援している。 月1回程利用者の体調に配慮しながら紅葉狩りや花見、葡萄狩り、林檎狩り、西山荘へのドライブなどに出かけるほか、利用者の要望で外食をするなど、外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じて、御自分で管理していただいております。それ以外にご家族管理で実施しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要な場合に、電話や手紙等をやりとりできるように支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に飾るものや、活ける花などは、季節感を出すようにし、においや温度等の環境面にも配慮しております。	居間兼食堂は採光や室温に配慮しているほか、数ヶ所にソファを配置して利用者が思い思いの場所で寛げるよう工夫するとともに、玄関や廊下、居間には行事の写真や日本人形、生花、ちぎり絵などを飾り、季節を感じながらゆったり過ごせる空間となっている。 トイレは車いすでも十分に出入りできる広さを確保しており、浴室にはシャワーチェアや手摺を設置して、利用者の安全に配慮した設計となっている。 居間やトイレ、浴室などはいずれも清潔に保たれ、利用者が気持ちよく生活できるよう配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やテーブルの配置等を工夫し、ダイニングテーブル等も活用しながら、思い思いの生活が送れるようにしています。	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団や毛布などは、ご自宅のものをお使いになれるようにしています。また、自助具や福祉用具も、可能な限りご自宅と同じようなものが使えるようにしています。	カーテンやベッド、エアコン、テーブル、布団、時計を備え付けている。 管理者は使い慣れた物品を持参してもらえよう説明するとともに、利用者が前回と同じ部屋に泊まれるよう配慮している。 利用者は家族等と相談しながら、使い慣れた布団や毛布、福祉用具などを持ち込み、居心地よく宿泊できる居室になっている。	/	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべく家と変わらないように、極力手すりをつけないようにしていましたが、歩行が不安定な利用者様も増えたので、今年度トイレ真の廊下に手すり、トイレ内に手すりを追加しました。	/		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	1, 毎日ある ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが ○ 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 フロイデ総合在宅サポートセンター山方

作成日 平成28年9月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策	避難訓練を地域の方々と協力して行えるようにする	地域住民への参加声かけや地域活動への参加をしていく	1年間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。